編集委員会　編集委員長　石　丸　圭　荘
編 集 委 員　檀　　和　夫（医学）　石　井　孝　法（教養）
源　　裕　介（理学）　松　本　　揚（整復）
大　鳥　和　子（看護）

編 集 後 記

はじめに，了徳寺大学研究紀要第16号（論文18編・報告10編）の発刊に御尽力いただきました教職員各位に深甚の謝意を表します．さて，第32回オリンピック競技大会（2020／東京）が，COVID-19の感染拡大の影響を受けて1年延期しての開催となりました．夏季オリンピックの日本開催は，1964年の第18回オリンピック競技大会以来57年ぶり2回目です．柔道競技は，2021年7月24日 から8月31日の8日間，日本武道館で開催されました．本学職員柔道部のウルフ・アロン選手が100kg級に出場し，優勝することができました．世界の柔道競技人口から考えると0.0000002%の可能性です．どの分野においても，世界一になること・世界をリードすることは至難の業ですが，チームの一員として関われたことを嬉しく思います．その嬉しさの一方で，非常に考えさせられる大会になりました．国内では，COVID-19が収束しない中でのオリンピック開催について賛否の声があり，オリンピックのあるべき姿や価値が問い直されました．過去にも世界大戦による中断や東西冷戦によるボイコット問題などの社会情勢によって，その価値が問い直されています．本学も健康科学を軸としたアカデミアとしてオリンピックを「ただの祭り」と捉えるのではなく，その理念や本質的価値について考えることが必要だと思います．ここで，考える種として，オリンピック精神と1940年の東京開催招致に関わった嘉納治五郎の狙いに触れてみます．嘉納はオリンピック精神に武道精神を融合させることを目指していました．オリンピック精神は心身の調和的な発達を求めたヘレニズム思想の展開であり，嘉納の武道精神は身体とともに心を練りそこで得たものを社会生活に応用していくことでした．これらの融合が発展的であったことから，嘉納は「オリンピックを真に世界的な文化にする」という考えに至りました．また，体育による青少年の教育推進，スポーツに内在する友好理念への理解，国民体育の推進を理由として嘉納はオリンピック・ムーブメントに参入しました．ここからわかるように，ただ勝ち負けを競い合うために参加するのではなく，国民にどのような影響を与えられるのかを考えていました．当時，その効果・影響は非常に大きかったと思います．現在，日本ではオリンピックの価値を実感できていない方が多いのかもしれません．無観客開催でしたので，身近に感じられなかった方が多いと思いますが，57年ぶりに東京で開催されたオリンピックをきっかけとして，私たちのできる国民への寄与について考えていただければ幸いです．

（石井　孝法）

了徳寺大学研究紀要　第16号

発　行　日　令和４年３月31日

発　行　人　了徳寺 健二

発　行　所　学校法人　了徳寺大学
〒279-8567　千葉県浦安市明海5-8-1
Tel. 047-382-2111

印　刷　所　三陽メディア株式会社
〒133-0056　東京都江戸川区南小岩8－12－3